

東京大学大学院 人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告

(提出日 平成 22 年 8 月 30 日)

氏名：熊倉良子

所属研究室：フランス語フランス文学研究室

学年：修士課程一年

派遣形態：推奨プログラム

派遣先研修プログラム：パリ高等師範学校夏期大学

研修概要

(1) 派遣先研修プログラム基本情報

国名：フランス

都市名：パリ

研究教育機関：パリ高等師範学校

プログラム名：Un été à l'ENS (パリ高等師範学校夏期大学)

(2) 派遣期間

出発日 平成 22 年 7 月 16 日

帰国日 平成 22 年 8 月 9 日

総日数 25 日間

(3) 研修スケジュール

7月16日(金)	7月17日(土)	7月18日(日)
	Test de français, groupes de FLE (フランス語クラス分けテスト)	
Arrivée et accueil des étudiants (到着)	Découverte de l'ENS : Visite de la bibliothèque, Histoire et présentation de l'ENS (学校案内、図書館見学)	
	Présentation des cours, des professeurs et entretiens individuels (授業、講師案内、個人面談)	
	Soirée d'ouverture : spectacle Les Essais d'après Montaigne (観劇、モンテーニュ『エッセー』)	

7月19日(月)	7月20日(火)	7月21日(水)	7月22日(木)	7月23日(金)	7月24日(土)	7月25日(日)
FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	Philosophie(哲学)		
Philosophie(哲学)	Littérature(文学)	Philosophie(哲学)	Littérature(文学)	Littérature(文学)		
Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)			Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)	Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)	Présentation du théâtre 演目紹介	
	Soirée internationale 国際交流会				Théâtre, à la Comédie Française 観劇(コメディフランセーズ)	

7月26日(月)	7月27日(火)	7月28日(水)	7月29日(木)	7月30日(金)	7月31日(土)	8月1日(日)
FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	Philosophie(哲学)		
Philosophie(哲学)	Littérature(文学)	Philosophie(哲学)	Littérature(文学)	Littérature(文学)		
Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)			Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)	Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)		

8月2日(月)	8月3日(火)	8月4日(水)	8月5日(木)	8月6日(金)	8月7日(土)	8月8日(日)
FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	FLE(フランス語)	Philosophie(哲学)		
Philosophie(哲学)	Littérature(文学)	Philosophie(哲学)	Littérature(文学)	Littérature(文学)	Buffet(昼食会)	帰国
Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)			Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)	Atelier, Enquête de terrain(アトリエ、フィールドワーク)	Cérémonie de clôture(閉会式)	
					Soirée Dansante (ダンスパーティー)	

自己評価

(1) 当初の計画概要

私は本プログラムを通じて、自分の専攻である18世紀フランスの哲学者デイドロの研究を行いたいと思っている。そのためにはまず、外国語としての確固たるフランス語運営能力の獲得を目指したい。さらに「フランス文学」、「歴史」、「美学」など、専門分野に近い科目の学習を通じて、修士論文を始めとする今後の研究に役立つ専門的な知識を獲得したいと考えている。普段の学校生活では集中して勉強することの難しいこれらの科目を、本プログラムにおいて学習する。

(2) 達成された成果

当初の計画の達成成果…フランス語については、試験によってレベル分けされたクラスで、ほぼ毎日授業が行われたので、当初の計画を達成できたといえる。とくに他国から来た学生たちと話すことは、日本ではなかなか得ることの難しい、フランス語を話す良い機会となった。「フランス文学」の授業は、ある一つのテーマに関する様々な作品の抜粋を多く読むことができ、自分のフランス文学の知識の幅を広げることにつながった。「歴史」は、自分が想像していたものと授業内容が違ったため、今回受講しなかった。また「美学」も開講されていなかったため、受講することができなかった。

計画外の成果…「歴史」の代わりに受講した「哲学」の講義では、こちらの予習不足も

あって授業の内容を理解するのに苦労した。しかし、「哲学」という西洋人にとっては学問の基本となる科目を受講することができたのでよかった。アトリエでは「美学」の代わりに「フィールドワーク」を選択した。この授業を通じて普段は決して行くことのないパリ郊外や外国人居住者の多い地域に足を運ぶことで、日本には知ることのできない、現実のフランスを知る貴重な体験となった。

(3) 感想

大学院入学後、今回の推奨プログラム派遣の募集締め切りまであまり日数がなかったため、最初応募することを躊躇したが、フランス最高峰であるパリ高等師範学校で授業を受けられるという、またとない機会を利用する手はないと考え、思い切って応募することにした。エッセイや自己推薦書を、フランス語で短期間のうちに仕上げるのには苦労したが、全てのプログラムを終えてみると本当にあの時応募してみてもよかったと思っている。

このプログラムで開講されている授業はどれも内容が高度であり、日本である程度その分野を学習していたり、あるいは自分で本などを読んで予備知識を持っていないと、授業についていくのは正直きつuitと思った。授業を行う講師陣も若い人たちが多く、学生も学部生が中心でとても若かったので、時に授業中先生と学生、あるいは学生同士で議論が白熱し、聞いていてとても面白かった。

また授業の内容を理解する以前に、他国から来た学生たちのフランス語のレベルが非常に高かったため（彼らは皆、ネイティブスピーカー並みの話す、聞く能力があった）、そうした外国人の学生を対象に進められていく授業のスピード、講師の話す言葉の早さについていくことが、まず何よりも大変であった。また授業中の議論に積極的に参加し、とにかく自分の意見を表明しようとする他国の学生たちの姿からは、海外と日本の教育方法の違いをまざまざと見せつけられた。しかしそうした他国から来た学生も、今回のプログラムにおいて、外国語としてのフランス語をしっかりと勉強しようという意識を強く持っているため、彼らとの会話を通して他国でのフランス語、フランス研究の現状を知れたことは、日本ではなかなかすることのできない新鮮で興味深い体験だった。

今回のプログラムの中で、自分の研究内容と直接結びつくような授業は残念ながら開講されなかった。そのため、このプログラムでの成果を今後の研究に直接役立てるということは難しいかもしれないが、それ以上に今回の研修プログラムでは学んだことがたくさんあった。まず「文学」、「哲学」、「フィールドワーク」などの多様な授業を通じて、広い分野に渡る知識を増やすことができたことである。これらの知識は、どれも日本で得ることが難しいものばかりなので、今回得た知識が、研究に直接役に立たなくとも、今後もっと大きなフランスという枠組みの下で、その言語や文化を理解するうえで、大いに役に立つことが期待される。また、さまざまな国から来た学生と三週間共同生活をしたという今回の経験は、今まで持っていた世界観や価値観を大きく変えさせ、人間としての幅を大きく広げる貴重な機会になったと。しかも、それをパリ高等師範学校という最高に恵まれた環

境で体験することができたという事実それ自体が、今回のフランス滞在で最大の成果であったといえる。また、外国研究をするうえで、実際にその国に赴き、その国の空気を吸うことがいかに重要であるかということ、このフランス滞在中を通して身を持って痛感した。そして、本国フランスにおいて自分の研究対象がどのように扱われているかを、この目で確認し、今後の研究の計画をぼんやりとでも思い描くことができたというだけでも、修士一年の夏休みという比較的余裕のある時期にフランスに行く意味が大いにあったと思う。

今回の滞在中では、航空券、滞在費などの経済的支援を大学側が行ってくれたため、自分の専門に関わる書籍を現地で買うなど、金銭的にはかなり余裕のある滞在中をすることができた。その点においては非常に感謝の気持ちでいっぱいであり、今回のプログラムで得た知識や経験を少しでも修士論文、さらにはその後の研究につなげていければと思っている。